

しなののうた

姥百合は拳のごとき実を結び華やかなりし夏を思える



杉田小百合

しなののうた

四阿は深閑として落葉おき辺りいちめん秋の花咲く

杉田小百合



しなののうた

山あいの刈田に騒ぐ青蛙白雪の浮く日射し貪る



杉田小百合

しなののうた

山麓に湧水ありて旅人は塩の道なる遙か偲ぶや

杉田小百合



しなののうた

小鳥きて一樹に止まり囀るも姿の見えず声の清み行く



杉田小百合